

病院・医療等対策特別委員会

▶ 特別委員会の協議経過

■第4回特別委員会

1) 日時 平成28年11月24日(木)

2) 内容 ・第7回中津川市公立病院機能検討委員会報告について
・第1回、第2回中津川市公立病院地域協議会報告について

3) 報告事項

●第7回中津川市公立病院機能検討委員会報告について

①病院事業地域説明会 参加者人数

・7月に5会場、9月に3会場で実施。延べ1,341人の参加があった。

②病院事業地域説明会(9月実施分)のご意見のまとめ

・南木曾町、大桑村の方のご意見が多くあった。

③病院事業地域説明会(9月実施分)の書面でのご意見のまとめ

・南木曾町や大桑村からもう少し協力してもらってはどうかのご意見が寄せられた。

④中津川市病院事業新公立病院改革プラン構成(案)について

・総務省が示した内容に沿って策定するもの。シナリオは決定していないが、策定期限があるので、事務的作業を進めていく。市の方針決定に伴い逐次変更していく。

⑤各団体からの要望書等について

・市民グループ、国保坂下病院人工透析センター患者会はなの木会、区長会・まちづくり協議会など8団体連合、中津川市障害児者を守る会、坂下保育園保護者会、坂下病院を支える会から要望、アンケート報告などをいただいた。

⑥シナリオ②の場合、「坂下病院の患者を市民病院で受けきれるか」に関する考察について

・入院、外来ともに、受け入れ可能という推計

⑦平成27年度実績を基にした診療科別シミュレーション

・坂下病院から100名の患者が移動しても現在の休床を利用すれば吸収可能。重症度が違うため地域包括ケア病棟で吸収

⑧坂下病院の民営化に関する意向調査 経過報告について

・平成28年10月27日時点では、3件の医療機関についてまだ訪問できていない。

⑨委員からの意見書のまとめについて

・新公立病院改革プラン策定に関する検討委員会委員へのアンケート

➤ 主な質疑

Q：資金不足の最終見込みが4億3千万円から4億8千万円という報告ですが、冒頭の副市長が説明された額との違いを伺う。

A：平成28年度当初では4億円ほどの資金不足を見込んでいたが、8月に医師が退職した影響で、月平均で2千万円ほどの減収となり、8月末に市民病院から1億円を借り入れている。最終的には5億3千400万円の基準外繰入れをお願いしていくということ。

Q：恵那市が病院を開設するという事で、恵那市における医師確保を中津川市も勉強してはどうかとの意見もある。他市の状況を参考にしてこのプランの中に入れていく考えがあるか。

A：新公立病院改革プランの目指すところは、平成32年。恵那市とはその先において、将来的には恵那市との医療をどうするのかということがあるが、改革プランでは恵那市を意識した内容は特に無いと思う。

Q：医師確保が難しいという理由で、減ったシミュレーションでプランを立てるのはおかしい。ただ、人口が減って患者数が減ってくるから、それに見合った医師数しか派遣されない可能性は確かにある。考え方、腰が少し引けていないか。もう少し踏み込んで、風呂敷を広げた考え方もある必要ではないか。

A：今回の再編の取り組みでは、医師が確保できない難しさ、それに伴う財政的な影響も説明している。もう一つ、中津川市では平成32年の1日当りの入院患者数が、351人。8万人規模の人口の都市で適正な規模を分析し、市民病院が360床あるので、極論では1つの病院でいいという話になるが、現状は合併をして2つの医療機能があるので、それを有効活用していくということ。医師が確保できないということだけでこの取り組みをしているということではない。

Q：市民病院で患者を受け入れるための条件として、資料の説明以外でハード面で変えなければいけないところはあるのか。

A：ハード面は、外来では診察室を少し整備しなければいけない。病棟についても休床しているところを使えるように整備しなければいけないが、大きなお金がかかるような整備は無いと認識している。

Q：民間医療機関の受入れ不可という結果に対し、再度訪問するとか、新たな方策は考えているか。

A：今回の調査の第一の目的は、現在の坂下病院の医療機能を維持した場合に受入れができるのか、できないのかを調査した。その調査結果は全ての医療法人、公的医療機関、民間医療機関が受け入れは難しいとの回答。ただし、今後2つの病院の再編の状況によっては、まだ検討の余地があるという感触があった。今後、方針が出て、その後坂下病院の具体的な医療機能の体制が決まれば、その点話し合いの余地があるかもしれない。

●第1回中津川市公立病院地域協議会（10月18日）報告について

①中津川市公立病院地域協議会委員名簿について

- ・会長、副会長選出、任期は10月1日から平成29年3月31日

②中津川市公立病院地域協議会設置要綱

- ・委員20名で構成

③中津川市公立病院機能検討委員会の取組みについて

- ・地域協議会委員に、公立病院機能検討委員会の資料を配布して説明

④中津川市公立病院地域協議会スケジュール（案）について

- ・第1回の地域協議会で承認されたスケジュールの説明

⑤提言用紙について

- ・地域協議会委員から意見をいただくため、提言用紙を配布した。

●第2回中津川市公立病院地域協議会（11月21日）報告について

①第1回中津川市公立病院地域協議会議事録について

- ・会議を公開で行うと決定し、一般の方9名、報道関係者6名の傍聴

②中津川市公立病院地域協議会質問の回答について

- ・平成32年度の入院患者数を351人とした根拠について

→ 人口推計と平成27年度実績を基に患者を推計した。

- ・医師の人事交流について

→ 現状では難しい。方針決定後に具体的な移行計画を立てる事になり、大学へお願いする必要がある。

- ・市立恵那病院の建替え影響について

→ 一時的な患者の減少も考えられるが、医療機能が現状と大きく変わっていないため、従来どおりの医療連携機能は保たれる。

など

④中津川市公立病院地域協議会【提言用紙】一覧について

- ・市民病院へ行くための交通手段を考えるべき。
- ・市民病院と坂下病院で医師の交流ができないのか。
- ・シナリオ2で良い。
- ・公立病院と言えども赤字経営は良くない。
- ・医師スタッフは市民病院に集約し、強化する。

など

➤ 主な質疑

Q： 地域協議会は、市民の意見を聴く目的で設置されていると思うが、資料5では意見を集約するための説明が確認できない。過去2回で十分な説明ができたか、理解されているか伺う。

A： 第1回では、一通り説明はさせていただいたが、判断のためにはまだ分からないことがあるとのことで、10項目の質問をいただき、それに回答させていただいた。12月6日に最終的な提言書をいただくために分からない点は埋めていくということで進めていて、概ね説明できたと認識している。

Q： 12月末までに市長が方向性を出した後も平成29年1月から3月まで地域協議会のスケジュールが組まれているが、ここではどのような協議会の進め方をしていくのか。

A： 市長の方針が年内中に出されるという前提で話をさせていただく。方針が出た暁には、それに則った改革プラン、実行計画を作っていく。平成32年までの1年1年の取り組みについて、更には、どういった機能を残していくかについてたたき台を作る。それに対して協議会委員からご意見をいただき、取り込めることについては、検討し、検証し、ということで、1月からは協議会委員からその実行計画についてご意見をいただく。

Q： 全国の黒字病院との比較でも、人件費は中津川市民病院は安くて、坂下病院は高いということか。

A： 100床から200床規模の病院になるので、黒字病院の人件費比率は、医業収益に対する割合だが、54.1%。国保坂下病院については57.7%。300床から400床の黒字病院が54.4%、中津川市民病院は53%。